

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4291100016 | | |
| 法人名 | 株式会社ケアサービス・久 | | |
| 事業所名 | グループホーム夕陽の丘 | | |
| 所在地 | 長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 11月 21 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年3月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 |
| 訪問調査日 | 令和 6年 1月 22 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の食事食材料を20品目と目標に掲げてご提供しております。裏庭菜園での少種類の種植えから収穫までを、畑作業が好きな利用者様と共に going しています。令和2年より看護師を配置し、医療機関との連携もスムーズになり利用者様の健康管理に努めております。また、コロナ禍に新しく設置したYouTubeTVを活用し、「昭和の歌謡曲」「介護予防体操」など取り入れ行っております。また、くつろぎの時間に下肢浮腫予防を兼ねたマッサージ器を設置し、利用者様の退屈しのぎや健康増進に活用しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表は日々現場に入り、職員の会話から資格や有給休暇取得、誕生日休暇やプレゼントに至るまで、働きやすい職場環境づくりに努めている。利用者コロナ感染者が一人も出なかったことは、不要不急の外出自粛や日々感染対策等、職員のたゆまぬ努力の賜物だと感謝している。職員は利用者の日常の一コマを集め、便りやLINEで家族に発信している。面会制限下の家族は、青空をバックに撮った利用者のはじける笑顔の写真に安堵感と職員への信頼を深めている。昨年の看取りでは、利用者の尊い最期を職員間で共有しており、次へ繋がる貴重な経験となっている。介護計画作成は、ケアマネジャーは常に課題解決に向け取り組んでおり、更なるサービスの質の向上に期待が持てる。代表は早々にBCP策定を終え、災害に関し意識を高く持ち取り組んでいる。安心安全な環境の中で家族や地域住民との交流や個別の外出等、楽しみごとを増やし、理念の中の「皆笑顔で暮らす生活」の実践に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関内と事務所内に掲示しており実践できている | 申し送りや毎月のケア会議で職員間で理念を共有している。代表自ら介護に携わり、日々の会話の中に冗談を交え、リラックスした中で利用者の本音を引き出している。職員は急かさず利用者本位の支援に努めている。利用者が笑顔で暮らせるよう、理念の中の「何をしたいか考え」「利用者中心の介護」の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 以前は地域の行事(ちびっこ相撲、ペーロン大会協賛等)に参加させて頂いていたが、コロナ禍で全体での外出は自粛している。少人数でのお散歩は行っており、ご近所様とお会いした際は利用者様の顔を覚えて頂けるよう挨拶や雑談することを心がけている。 | コロナ5類以降は近所のベーグル店やみかん販売所での買物、自動販売機でジュースを買う等、利用者の希望により散歩を増やし地域に出掛けている。利用者は散歩中の犬の名前呼んだり住民と挨拶する等、顔馴染みの関係である。今後は、相撲やペーロン見物、保育園児やボランティアの音楽演奏受入れ等再開する予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 推進会議内で、構成員である民生員さんへ、身近に認知症関係でお困りの方等いらっしゃれば気軽にご相談くださいと伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 推進会議での助言等は、会議内でも共有しており、必要項目に関しては行っている。 | 今年度は初回のみ対面での会議、他は感染による影響を懸念し、2ヶ月毎の書面会議を行っている。行政、元公民館長、民生委員、家族は交代制で参加し、利用者状況、行事や研修報告等行い、議事録から意見交換の様子が確認できる。水分摂取方法等、家族にアドバイスを依頼し、得られた意見をサービスに繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域の連絡協議会に所属しており、グループホームに必要な案件時には参加している。 | 事業所の現状を積極的に伝えたり、運営に関する疑問点は電話で尋ねている。コロナワクチン接種の情報をメールで受け、医療機関との調整を行う等、町と協力関係を築くよう取り組んでいる。町と広域地区の連絡協議会に所属し、「看取り、ACP」「コロナ感染症対応人材育成」等、必要な研修を受講しスキルアップに繋げている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月/1回のケア会議内にて、「身体拘束会議」も併せて行っている。また、拘束関係の研修会や講演会には積極的な参加に努めている。 | 身体拘束等の適正化の為の指針を整備しており、毎月のケア会議に合わせて委員会を開き、問題行動やヒヤリハット等、事例をもとに検討している。虐待・身体拘束等の外部研修や3ヶ月毎の内部研修にて職員に周知している。玄関は施錠しておらず、帰宅願望の利用者には寄り添い、話を聞く等、拘束のない支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待、身体拘束関係の研修会、講演会には積極的に参加し、事業所内で共有している。また内部研修として年4回実施している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在対象者はおりませんが、必要に応じて対応できるよう努めます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書を基にご理解頂けるまで丁寧に説明し、最後は納得承頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍ではLINEを活用し現状報告を写真付きで行っていた。制限付きではあるが、面会再開時にはその都度のご報告を行っています。 | コロナ禍の感染予防対策として、家族の面会は中断していたが、面会の再開を希望する声が出たのをきっかけに検温や手指消毒の他時間などを決めて再開している。また、LINEを利用して顔を見ながら話したり、写真や動画を送るなど家族が安心できるよう工夫している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 気軽に話せる環境づくりを行っており、気さくになんでも話せる雰囲気で行えていると思います。 | 代表は日々現場に入り、職員の会話から資格や有給休暇の取得、誕生日休暇やプレゼントに至るまで、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、日頃から気軽に話せる関係性を築いており、職員は、利用者の転倒防止対策としてセンサーの導入を代表に依頼し、反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与内に特別手当枠を設けたり、誕生日休暇(プレゼント付き)を設けています。有休休暇も事業所側から促すなど、とりやすい環境作りに努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々のスキルアップの為の研修は要望があれば対応している。また、事業所側からの要望での研修や講習にも参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県グループホーム会員であり、町内外の定期的な会合には参加。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 施設独自の調査票を基に、ご家族からの聞き取りを行い、利用者様とのコミュニケーションに役立てている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の事前話し合いの中で、ご家族の不安や悩みを聞き取り、解消に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 情報提供書や、調査票を基にSWや前任者へご意見を伺い対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 毎日の生活の中で、信頼関係は構築されており、家族のような冗談を交え家事を共に行っている。表現が良いか悪いかわかりませんが、お婆ちゃんと孫(子)のような関係が築けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の出来る事、出来ない事を話し合っており、時にご家族の協力を頂きながら関係を築けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の友人知人の訪問は歓迎している。お墓参りや、ドライブ中の実家寄り等も家族了承のもと行っているが、現在はコロナ禍の為中止している。 | 利用開始時に生活歴を聞き取り、裁縫が得意な人は雑巾を縫ったり、繕い物をしている。また、携帯電話を所持し、家族などに電話している人や読書好きな人には好みの書籍をプレゼントしている。美容院に出掛けたり、暑中見舞いや年賀状を書いて投函するなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活では様々な利用者間トラブルが発生しますが、食事席やソファでの孤立を防ぐ為、個々の性格を見極めた配置をとっている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院等で退所された方のお見舞いや、ご家族の困りごとや相談を受ける時がある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様と、ご家族との意向に食い違いが生じた場合を除けば行えている。 | 起床や就寝の時間は本人の希望に沿っている。難聴の利用者には職員が耳元で話し掛けて、利用者同士が交流できるよう配慮している。介護度が高く自分の意思を表出することが困難な場合は、本人の様子を家族に伝えて一緒に検討し、本人の思いに近づけるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前聞き取りで行えている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の健康状態、認知症度合は把握できており、変化があれば共有し把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃の気づきをケア会議にて検討しあい、プラン作成に活かしている。 | 毎月のケア会議にて、全職員で支援状況を検証し、改善点を話し合っている。実践状況をABC評価した介護日誌と、職員間で共有する連絡帳をもとに、ケアマネジャーが評価し計画の見直しに繋がっている。本人の暮らし方が見える詳細な介護計画書となっている。家族の意見は電話で尋ね、本人、家族に同意を得て実践している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の日誌とは別に、スタッフ間で共有する連絡帳で注意事項、連絡事項、プラン変更の取り組み、新たな取り組みに活かしている。LINEアプリもグループを作り活用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様、ご家族の要望には出来る限りの対応を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内ボランティアさんによる演奏会や、行きつけの郵便局に同行したり、行員さんの訪問など支援できている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 個々の掛かりつけ医をお持ちの方には、看護師を配置したことで個別での対応体制が整い、緊急時の対応も訪問看護ステーションとの連携によりスムーズな搬送や受診ができています。 | 利用者の多くは、協力医の月2回の往診と、訪問看護ステーションを利用しており、事業所は連携を図っている。歯科は定期往診、他科は看護職員が支援し、結果を家族へ報告している。訪問看護師は体調管理他、主治医の指示による点滴、夜間緊急時のオンコールに対応している。職員は緊急時対応を理解している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師を配置したことで、医療機関や訪看、薬剤師との連絡を密に行っております。また、訪問看護ステーション月/2回の定期訪問で相談やアドバイスの共有ができています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病状経過は施設看護師と医療機関と密に行っている。また、代表は定期的に病室を尋ねてコミュニケーションを図っている。(現在は医療機関による面会禁止) | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に、重度化と見取りの指針を説明しお渡ししている。医療機関や訪看との情報も共有できています。「ACP研修」等参加し、対応向上に努めている。 | 契約時、重度化指針をもとに、事業所では看取りを行うことを説明し、家族に同意を得ている。体調変化時、主治医や訪問看護師と連携を図りつつ家族と方針を決めている。家族の同意と協力を得て1件の看取りを終えている。代表は葬儀に参列しており、職員は利用者によく学び、看取り支援の意義を共有している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 火災対応訓練時に併せて、緊急時に備えた訓練を行っている(AED訓練、心肺蘇生法訓練、誤嚥時の対処法訓練) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 年/2回(消防立会い、自主)の訓練を行っている。消火器以外に、投げ込み消火ボトルと油用消火スティックを設置している。ご近所へはAED設置の旨を周知している。 | 年2回の夜間想定訓練の内、消防署立会い総合火災訓練を利用者参加で行っている。コロナ禍の為、屋外で心肺蘇生、AED訓練を実施している他、1回は夜間帯に避難経路確認等を行っている。備蓄、非常持出を整備し、BCPは早々に策定しており、災害時の事業所の対応を行政に伝えている。ただし消防団との連携には至っていない。 | 災害時は地域の助け合いが重要である。日頃から、近隣消防機関である消防団との連携を図り、支援が必要な利用者の安全を守る為の訓練実施に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ここに合わせた言葉使いで接している。 | 代表は職員に居室は本人の部屋であるため、模様替えなどは本人の了承を得て行うことと指導している。失敗して本人が恐縮している時には職員は優しくさりげなく対応している。苗字にさん付けで声掛けし、反応がない時は名前にさん付けなど工夫している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の雑談の中で、探り探り聞き出せるよう努めているが、認知症が邪魔して聞き取れない場合が多い。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様個々のペースは把握共有できているが、9名すべての生活リズムが存在し、同時にこなす事は困難であり、業務都合になる場合もありますが努力はしております。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 要望に応じ、白髪染、保湿液や乳液を用いて使用しております。スタッフ私物の美顔器を用いてのマッサージも行っています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 会話のネタになるので、あえてメニュー表は作成せず利用者様との雑談の中や、TVCMで放映された際の「美味しそうね～」の言葉を拾い利用者様とメニューを決定する時もある。 | 職員が献立を作り、食材を買い出しに行き調理している。また、畑で収穫した野菜を使って、利用者との話題に役立てている。職員も同じ食事をとり、食卓を囲み楽しい時間となっている。トロミ食やミキサー食もある。正月はお節を提供し、誕生日にはおやつにケーキで祝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取はほぼできているが、水分を摂りたがらない利用者が多く、推進会議を通じて解決策をお聞きするが解決には至っていない。お茶、紅茶、コーヒー、ラテ、牛乳、ポカリ、100%ジュースと工夫しているが、難しい課題です | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月/2回の歯科医往診にて清潔を保っている。また衛生士さんからの個別に助言や対策法も伺っており実行できている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者様の拒否や、やむを得ない場合を除き、オムツ外しを促進している。入所から排泄パターンを掴むまで2ヶ月程を要しています。 | 職員は排泄チェック表を確認して定期的に声掛けし、トイレに誘導している。事業所には排泄が自立している利用者がある他、夜間はポータブルトイレやおむつを使用するなどさまざまである。ポータブルトイレは使用の都度洗浄している。退院後におむつからリハビリパンツに改善した例がある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 施設看護師による排便調整や、医療機関や訪看訪問時に相談や助言を頂いている。食材も、野菜や果物を多く取り入れる努力は行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本の入浴日は設定しているが、個別の入浴も対応できている。入浴剤も数種類準備し、風呂場ドアに本日は〇〇の湯という掲示板を貼っている。脱衣所にヒーターを設置したことで着替え中の冷えもなくなり楽しんでもらえていると思う | 事業所では夏は2日に1回、冬は3日に1回入浴を支援しており、入浴日以外は清拭と更衣で清潔保持に努めている。浴室と脱衣室の温度差がないようにヒーターで温めている。入浴を拒否する時には順番を変えるなど工夫して無理強いないよう心掛けている。入浴時は、本人が昔の話をしており、寛ぐ時間となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室内の冷房暖房温度や、照明光量は利用者様の習慣に合わせて対応している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 独自の服薬管理シートや、振り分けBOXを作成し誤薬がないよう注意している。また、看護師を配置したことで薬剤師さんと密に情報共有しており安心した服薬ができている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力(裁縫、編み物、調理、園芸等)を十分に発揮頂けている。裁縫が得意な方が多く、雑巾や足拭きマット、布巾類を作成してもらっている。お礼の言葉がけで、充実した笑顔が見受けられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 以前は全員での外出機会を設けていたが、まだコロナが尾を引いており、個別散歩や近辺ドライブ程度を行っている。 | コロナ禍で数年中断していたが、今年から桜やコスモスの花見を再開している。利用者は職員と一緒に近隣にある足湯やベーグルの店、みかんの無人販売所に出掛けて買物を楽しんでいる。また敷地内に鯉のぼりを飾ってみんなで眺め、外気浴している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理の要望があれば対応するが、認知症状による物盗られや他人を泥棒扱いされたケースがあり、難しい課題です。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状や暑中見舞い等支援している。初ケースとなる「携帯電話」使用による支援も行っております。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やリビングには観葉植物を置き、リビング大窓からは外の花壇が見える様配置。西日対策として紫外線フィルムを施行。外にはメッシュの日よけを設置している。 | 玄関の観葉植物は温かみがあり、リビングからは海が臨め開放的である。西日の射す時間帯には、カーテンを引き眩しさを軽減に努めている。利用者はテレビに合わせて皆で富士山体操を行ったり、習字や裁縫等、自分の時間も大切に過ごしている。館内は清掃消毒や日に2回の換気を行い清潔な環境となるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 外の眺めが良いように、TV視聴が良いようにソファー位置を変更。食卓テーブルと椅子も新調し、軽作業や団らんの場となっている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時には、家具新調せず、使い慣れたものを準備頂くようお話している。また、余っている椅子等を貸し出して設置している。 | 居室は、収納クローゼットとベッドを備え、持ち込みに制限はない。家具や家族写真、裁縫道具や愛読書、日用品等、馴染みの物がある。ソファ下にマットレスを敷き転倒防止に備えている。毎朝、掃除機やモップによる清掃や、居室担当職員は、棚の整理やベッドメイキングを行っており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや浴室、自室には目印になる物を設置している。 | | |